

校園名：弘前大学教育学部附属中学校

所在地：〒036-8152 青森県弘前市学園町1-1

電話番号：0172-32-7201

記載日：平成28年5月17日

記載者：高木晋

記載者役職：副校長

## 本校の校風、特色について：

### 自主・創造・気品

「自主・創造・気品」の教育目標の下、意欲的に学習する生徒が多く、全体的に明るく社交的な生徒もたくさんいます。全体に明るく落ち着いた雰囲気の中で学習や各種活動に励む生徒が多いです。この三つの言葉を生徒はよく意識して学校生活を送っています。

また本校では部活動は任意加入ですが、地域の文化・スポーツ活動に参加する生徒も多くいます。部活動やこうした校外での活動と学習を両立させるように生徒は努力しています。多くの生徒が地元の進学校に進むことから、生徒の努力のあとがうかがわれます。

### 自治

生徒の「自治会活動」（他校で言うところの生徒会活動）への取組は、まさに「生徒による自治」として、長く受け継がれ良き伝統となっています。

もちろん、教師による事前の指導は大切であり、手間を惜しまずに指導をしています。こうした教師による指導の後には、生徒が考えながら活動を進めていきます。学年が進むにつれて、生徒による自治の幅がどんどん広がっていきます。

生徒会長に当たるのは「実行部長」と呼ばれます。専門委員会として5部（総務、衛生、生活、文化、運動）・3局（放送、販売、根っこ編集局）・2委員会（学識向上、交通安全）があります。これらの部局長は実行部長より任命されます。この他に外部局として附中新聞社、附中応援団、附中図書局、附中JRCがあり、独自の活動を日々展開しています。

### 「根っこ」精神

本校が戦後間もない頃に創立した頃、本校は弘前公園内に校舎がありました。校庭整備のために、樹木の伐採が行われたのですが、どうしても抜けなかったイタヤモミジの切り株がありました。どんな過酷な環境にも耐え、しっかりと大地に根を張って動じない姿は、その後附中生のシンボルとなりました。

しかし何年か経ってからその根っこを抜くこととなり、当時「根っこの葬式」が営まれたとの記録が残っています。

現在地に校舎が移転した後も、この「根っこ」は語り継がれ、「根っこの歌」も歌い継がれています。現在でも、新入生へのオリエンテーションでは、これらのことがスライドを用いて上級生から説明されており、本校の伝統として語り継が



校舎の時計の文字盤のデザインにもなっている「根っこ」

れています。

本校の教育目標の中に「大きな理想をいだきながら、根強く生活を切り開いて進む。」との一文があります。「根気強く」ではなく「根強く」という言葉をあえて用いているところにも本校における「根っこ」精神の位置付けが見てとれます。

### 本校の卒業生の活躍状況について：

生徒は卒業後、高等学校において学習面はもとより、生徒会や部活動のリーダーとしても多数活躍をしています。進学先としては、弘前市内にある私立高校や県立普通科高校が大半を占め、高校卒業後は、本校で培った根っこ精神を礎として全国有数の大学に進学しています。

また、社会人としての本校の卒業生は、県内外を問わず、政治、経済、科学、医療、公務、教育、芸術など多方面で活躍する才人として高い評価も受けています。

### 本校勤務経験者の先生方のその後の活躍状況について：

本校としては追跡調査を行っていません。そのため、まとまった資料は手元にはありません。なお、以下に記す本校勤務経験者の様子は、回答者のこれまでの経験から事例として記すものです。

新しい職場においては、附属中学校で経験したことを基に、学年や分掌主任として、また教育委員会指導主事として活躍しています。校内研修においても、附属中学校での授業や研究発表会を通じて学んだ内容や研究の進め方など、他の教師をリードする立場として活躍しています。今後も、新たなことに取り組もうという気持ちに溢れた人材が育ち、地域とのつながりを深めていく学校でありたいと願っています。

### 魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

#### Tuesday 実習

教育学部学生が、本校1年生を対象に前後期に分けて選択教科を開設しています。この実習は、以後に控える集中実習の助走段階と位置づけられるものです。

毎週火曜日に午後2時間枠で、前期5回、後期5回実施します。9教科全てを開設し、各教科の講座内容をもとに生徒が選択をし、学習します。

#### 他大学の学生の実習

地元にある東北女子大学・東北女子短期大学と、弘前大学教育学部との提携により、これらの学生の教育実習の一部を担っています。

東北女子大学4年生と同短期大学2年生の学生が中学校または高等学校での教壇実習に入る前に、中学校教育について、実習に臨むに当たっての心構えについての講義を本校で受けます。その後、東北女子大学、東北女子短期大学とも家庭科の免許取得の関係から、家庭科の授業参観をします。参観のあとは研究協議に入り

ますが、当日の授業についてもさることながら、普段の教科経営についての質問などが活発になされます。地元の大学との連携により、本校が本県の教員養成に貢献していることを示す事例であると言えます。

## 昼 活

火、木、金の昼休みと5校時の間に設定される20分の短学活で、全校自治会、学連（学年の生徒会）、学級自治会が運営することが基本です。金曜日は全校での活動となり、これに合わせて学級や学連が活動の計画を立てています。合唱交歓として、2学級がピアノのある部屋で互いの得意な歌を披露しあうこともあります。

## 歌の集い

5月と12月に行われる大きな行事で、多くの保護者の方々が来校されます。生徒が演奏するピアノ曲に合わせて、生徒は静かに入場します。進行、指揮、伴奏全てが生徒により行われます。学年合唱、全校合唱と整然と進む様子は圧巻です。これも本校の伝統的な活動の一つとなっています。



地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

地域にとっての伝統校の一つであり、卒業生は本校で学んだことをとても誇りとしています。そのため、親子2代にわたって附属学校を選んでいる例もあります。

同時にこうした気持ちが、本校の教育活動やPTA活動への協力体制の基盤となっています。

また、公開研究会などを通して、地域の学校に各教科の授業方法等について提案したり、新しい情報を提供したりする先駆的な取組が求められている学校です。教員は「一人一研究」という取組の下、テーマを定めて研究に取り組んでいます。

教育学部附属という学校である以上当然ですが、教育実習を専門に扱う分掌があります。一度に多人数の実習生にも対応することが可能であり、長年のノウハウも蓄積しています。（本年度は、のべ400人近い学生を受け入れました。）そのため、地域の公立学校に人事交流で異動になった時には、教育実習について、本校での経験をその学校で生かすと共に、伝えていくことが可能です。



## 附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

### 《教員養成と学校教育への良き理解者の育成》

教員養成系学部をもっている大学にとって、附属学校が不可欠であることは言うまでもありません。しかし、ここ数年は公務員に限らずいわゆる大量退職の時期を迎えます。これは、新卒教員が教壇に立つ率が高くなること意味します。この点からも、教員養成系学部との連携した教育実習の場としての附属学校の役割の重要性は増していきます。

ただし、本県の場合、現在の50歳代教員の退職後の新卒教員の採用については、不透明と言わざるをえません。人口減少、児童生徒数の減少と学校の統廃合に伴い、将来的な教員の需要数を見通すことは難しいためです。

こうした状況下でも大学からは、一定数の学生が毎年教育実習を行います。人口減という社会にあって、本県に教員として定着する学生数は不透明です。当然、教職以外の道を選ぶ学生も増えることでしょう。

このことから、教育実習と教員養成という第一の目的は堅持しつつも、教育実習をとおして学校教育への理解と教師という職業への理解を学生が深め、将来的に学校の教育活動への良き理解者、応援者を育てていくということも期待されてくるのではないのでしょうか。

つまり、将来教壇に立たなくても、学校教育を理解してくれる人を増やすということです。間接的ではありますが、このことも附属学校が地域の学校教育に果たしていく役割でもあると考えます。



### 《大学との連携と地域への公開》

大学との連携がなされており、各教科の指導法については協同研究を通じて先進的な取組が可能ですし、本校の生徒のもっている力からすれば、それらの取組に対しては十分に対応が可能であります。



「雪祭り」を終えての人文字

本校教員は他の附属学校園と同様、授業、学級・学年経営、生徒指導、校務分掌の業務、部活動、さらには教育実習生への指導など、多忙な日々を送っています。そのような中でも「一人一研究」の目標をもって研究と毎日の仕事に取り組んでいます。ここで得られた研究成果は公開研究会等で地域に公開しています。

今後も地域の学校教育の発展、ひいては本校のみならず、地域の子どもの可能性を伸ばすためにも、重要な存在の学校でありたいと願っています。